

生活交通の現状等について

(1) 現状

○交通事業者

人口減少、都市部への人口流出、企業の定年延長等により、ドライバーの高齢化や新たなドライバーの採用が困難なことが深刻な課題となっている。

○市民

「高齢となったことから自動車の運転が不安になり、運転免許を返納した。今後は公共交通を使って移動するしかない。」「高齢となったことからバス停までの移動が困難となり、家の近くまでバスを回してほしい。」などの公共交通に対する要望等が市内至るところから寄せられている。

⇒市民の生活交通に対するニーズは高まっているものの、交通事業者はこれに対応することのできない（生活交通の確保ができない）危機的な状況!!

(2) 対応策（案）

このような状況に対応するためには、

- ①市民に生活交通の現状について情報提供し、利用促進を図る。
- ②高齢者、障がい者等の交通弱者をはじめ、市民がより公共交通を利用しやすい環境を整備する。
- ③交通事業者に頼らない移動手段を整備する。

ことなどが必要になると考えています。

(参考)

※H30.8.29 日本海新聞より

**日ノ丸自が
バス減便提示**
地域公共交通会議

米子市地域公共交通会議が28日、市役所で開かれ、日ノ丸自動車
がドライバーの確保難
を理由に来年4月1日
のダイヤ改正で、市内
を走る路線バスの一部
を減便したい考えを示
した。

同社はドライバーを
募集しても若手の応募
がない現状を説明。重
複する路線があり、影
響が少ないとして松江
線と溝口線をそれぞれ
3往復、空港線を1往

復減便したいとした。
またJR米子駅を発
着し、イオンモール日
吉津（日吉津村）やJR
伯耆大山駅を周回す
るバス路線の新設など
を盛り込んだ県西部の
公共交通再編実施計画
について市が報告。現
在、国に申請中で9月
上旬にも認可される見
通しという。

このほか、市内を循
環する「だんだんバス」
と淀江地区を回る「ど
んぐりコロコロ」の2
017年度利用実績を
報告。いずれも利用者
数は前年度を上回っ
た。
(田子蒼樹)

※H30.9.28 日本海新聞より

琴浦町営バス 廃線危機

「直営」「タクシー」道探る
委託会社のドライバー不足

「こころのバスは、町
所有バスによる有償運
送のいわゆる「日バ
ス」。2008年度か
ら日ノ丸自動車を受託
運営し、運賃は小学生
以上で一律100円。
高齢者など、他に移動
手段のない町民に重宝
されている。

現在、JR浦安駅や
ショッピングセンタ
ー・アパートなどを経由
する「東伯線」3路
線、同駅とJR赤碓駅
を結ぶ「琴浦海岸線」、
赤碓中と船上山少年自
然の家をつなぐ「船上
山線」の5路線があり、
2017年の利用者は
合わせて延べ7万46
26人。町は約460

0万円の経費を投じた」と、日ノ丸自動車との
■契約継続に難色 契約期間は本年度で満
町商工観光課に委ねる。同社はドライバー
不足から契約の継続に
難色を示し、「一部撤退
も視野に入れていたと
いう。以前は路線の一
つで、現在は予約型乗
り合いタクシー（デマ
ンドタクシー）として
形を残す「上中村線」
と、遠隔地の児童を運
ぶスクールバスを受託
する日本交通も同様の
理由で撤退を示唆。町
は、同社と運行継続に
向け協議を進めている
が、現行のままでは物
理的に厳しい状況にあ
る。同町内の女性
(90)は一車の免許証を
返納してしまい、バス
がなくなるという「運
行のにも困ってしま
う」と心配する。

■代替案を模索
町は、運送会社など
の事業所に運行業務を
打診したり、町がドラ
イバーを募集する直営
での継続を検討したり
と、新たな手段を模索
する。仮に廃線になっ
た場合でも、交通空白
地域の住民を対象にタ
クシー運賃の半額を補
助する「タクシー利用
助成事業制度」を活用
する代替案も計画。利
用料は100円ではな
くなるが、隣接周辺地
域を対象地域に定め、
利用者の負担を減らす
考えだ。

「年内には結論を出
す」とする小松弘明町
長。利用率などのデー
タを精査し、方針を固
める考えだが、「ドラ
イバー不足は全国的な
問題。全路線維持が最
善だが、見直しは避け
ない」と理解を
求める。スクールバス
については「運行維持
は必須」と存続を強調
する。

池田悠平)



現行維持が危ぶまれている「こころのバス」
■琴浦町八幡